

横浜市小学校社会科研究会

3学年部会

研修会記録

第 3 号

令和5年 9月6日

横浜市小学校教育研究会

会長 濱田 哲也

横浜市小学校社会科研究会

会長 加藤 和之

同 学年部長 権正 倫範

【提案日時】

8月 1日 (火)

提案 田川 晋啓 先生 (山元小)

【会 場】

フォーラム南太田

司会 砂賀 康雅 先生 (笠間小)

記録 込山 明依 先生 (小菅ヶ谷小)

1 提案内容 単元名

単元名「わたしたちのまちと市 ～横浜の中心で横浜愛を叫ぶ～」

2 提案者より

○研究会主題について

視点①子どもが問いや見通しをもち、主体的に学ぶ単元づくり

ノート作りを始める。

- ・社会科の学習が始まったばかりだからこそ力を入れる。
- ・自分の言葉で書く。
- ・他教科でも活かせるようにする。

どうなっているのか予想する。

- ・3年生になって新しく始まった社会と理科の学習において、予想することは大切。

視点②協働的に学びを深めるための手だて

この子の活動範囲ってどこだろう？と探る。

- ・個を生かすには個の見取りがポイントである。

大きな地図をみんなで見る。

- ・本単元では「おおまかに見る」というのをキーワードにし、地図全体を広く見たり、おおまかに見たりして、考えたことをクラス全体で共有していくことを目指した。

2 協議会

視点①子どもが問いや見通しをもち、主体的に学ぶ単元づくり

- ・前の小単元を生かして市につなげる。(まちから区、区から市へと広げる。)
- ・児童一人ひとりの言葉で学習問題を作っている。
- ・土地利用や交通などを学習していくと見通しをもちやすくなる。
- ・本時の中でも、子どもの経験からまとめている。
→板書などでまとめ、さらに問題学習につなげる。
- ・学区の特徴から、区や市の特徴に広げるのは難しいのではないか。
- ・視点を絞ったり、分類したりしたらよかった。
- ・横浜三塔がいきなり扱われているのが気になる。
- ・地図から中区の特徴を掴んでもよかったのではないか。

視点②協働的に学びを深めるための手だて

- ・「どんなまち？」に対する答え方は3年生では難しい。答える時は、教師と一緒に言語化する。
- ・子どもの見取り、分かり方に寄り添った単元構造になっていた。

- ・3年生の実態→まちのを考える視点を結び付けるのは難しい。複数の視点を教師が主導性を発揮し、事実と事実を結び付ける支援が必要。

○その他

- ・横浜港→貿易と観光の二つの要素に触れる。
- ・中区ではない区で学習するときは、二点比較ができる。
→自分の住んでいる区と中区（公共施設などが多い市の中心）

<学年担当校長先生より>

○日枝小学校 加藤 智敏 校長先生

- ・特色とは、他の所と比べてみることで捉えやすくなること。
- ・自分のまちの特色を大まかに捉えた上で市の他地域を見ていくと、視点が広がり、再度自分の暮らす地域と比べながら見ることに繋がって、それぞれの特色について見方が広がり深まる。
- ・例えば、「横断歩道の幅が違う」「建造物の高さが違う」と気付いたら、なぜ違うのかと比べて考える中で、意味や役割について捉えていく。そうすることで最初の見学では点でしかなかった建造物等が、人の収容量等に目を向けて考えられるようになる。視点が変わっていく瞬間である。
- ・Y君、O君のように知識が豊富で発信力が人一倍ある子どもをクラスの中で生かしていくためには、どのように価値づけていくのかが大切になる。学級づくりの上でも、田川先生がどのようにこの子らを育てていくのか興味がある。

<講師の先生より>

○西部ハマアップ授業改善支援員 山田 仁 先生

- ・交通の視点で新横浜駅を見ると「なぜたくさんの方が利用するのか」と考える。そして、お店やアリーナがあることに気付く。それから横浜駅を見ると、もっと人が多いことに気付き、横浜駅には仕事をするとところがあることや乗り継ぎの駅でもあることに気付く。学習し、比較していく中で問いがつながり、横浜市の大まかな様子が見えてくる。
- ・中区は横浜の中心のまちで、横浜に一つしかないものが集まっている。人の流れや動きを見ると、観光、公共施設、交通の便利さなどが分かり、広がっていく。
- ・みんなで見学をするなど、共通の経験が大切。校外学習等でみなとみらい地区に行けると子どもが人の多さや観光地としての横浜を実感する。
- ・3年生の実態として、どの発言をどこまで問い返したらよいか難しい。柔軟に対応しつつも学習内容が指導要領から反れないようにしなくてはならない。
- ・人の動きで学習を進めるのであれば、観光の視点で進めるのもよい。横浜は港まちでもあり、みなとみらい地区は子ども達にとっても魅力的であり、身近な地域でもある。

○川和東小学校 高畠 聡 校長先生

- ・社会科の本質は、ぶれない自分の軸をもつことが大切である。授業者が子どもに願いをもつことが大切で、教材を通して何を考え、どのようになってほしいかを教師が考えることが大切。
- ・横浜は港が中心というのは、大人の認識ではないか。観光の側面で考えるとみなとみらい地区が中心と考えることもできそうだが、子どもは自分が中心である。社会の学習を通して、身近なまち、横浜市全体へと中心が広がっていく。
- ・教師にとっての横浜から、指導要領を通して横浜を見る必要がある。市の様子を大まかに理解するた

めに何を材にして、どのようにして子ども達が市の様子を捉え、場所による違いを考え、表現できるようにするかをしっかりと考えておく必要がある。

- 評価をつけるのは難しい単元ではある。3年生は初めて社会科を学習するので、学び方を学ぶ単元でもある。そのため、主体的を見る学習単元とも言える。
- 子どもが調べるのもよいが、教師が資料を提供することも大切。また、MAPのアプリやiPadを使って地図を見ることが3年生のうちから経験できるとよい。

文責 北沢 宏 (間門小学校)